

若者に必要なデートDV防止教育

やまぐち

山口 のり子

DV（ドメスティック・バイオレンス）というのは親密な関係にあるパートナーに対してふるわれるからだや心への暴力のことである。これは決しておとただけの問題ではない。若者たちの間ではセックスしたとたん、身体的、精神的、性的などさまざまな形で暴力行為が始まったり本格的になったりすることがある。そのような暴力を「デートDV」と呼ぶ。DVもデートDVも人権侵害にあたる行為であり犯罪だ。好きになった大切な人を深く傷つけ、二人の関係を破壊する行為だ。しかし愛しているから、愛されているからと考えるため、暴力をふるうほうもふるわれるほうも、それが暴力であるということになかなか気づけない。被害者は暴力のある関係からなかなか逃げ出せないし、別れようとするとも暴力が激しくなる。

DVは「力と支配」だ。暴力をつかって相手をおどし怖がらせ混乱させることで、自分の思いどおりに相手を動かそうとすることだ。支配を維持するために手段として暴力を選択するのだ。からだへの暴力だけでなく、相手をバカにするようなことを言う、どなる、相手のメールを勝手にチェックする、嫉妬して相手の行動を制限する、セックスを強要する、避妊の責任をとらないなどもすべてDV行動である。

DVを起こす要因としてはまずジェンダー・バイアスがある。社会や文化によってつくられた性差である「女らしさ」「男らしさ」に潜む偏見のことだ。「男らしさ」「女らしさ」には、女性への差別につながったり親密な関係になったとき、支配と被支配の関係に二人を陥らせたりするような危険な偏見が潜んでいる。もう一つの重要な要因は相手を尊重するコミュニケーションのしかたを学んでいないことだ。こういうことを若者たちに伝えるデートDV防止教育が、アメリカでは10年前から高校の授業などで盛んに行われている。日本でも高校の養護教諭などデートDVを見聞きしている人たちから、何とかしなければという声がたくさん届く。問題の広がりや深刻さ、そして防止教育の必要性が認識され、社会全体で取り組むようになる日が待たれる。

■プロフィール 1950年生まれ。海外生活が長く、シンガポールでは大学で日本語を教えながら女性支援の仕事をし、ロサンゼルスではDV加害者プログラムのファシリテーター向けトレーニングなどを受ける。2002年からNGO「アウェア(AWARE)」を立ち上げ、DV加害者向け再教育プログラムを実施。またデートDV防止プログラムを開発し高校などで実施している。著書『DVあなた自身を抱きしめて』『愛する、愛されるーデートDVをなくす・若者のためのレッスン7』（梨の木舎）ほか。